

第1回瀬戸市史編さん委員会開催結果

日 時	令和5年12月4日（月）午前10時25分から午前11時
場 所	瀬戸市役所 4階 庁議室
出 席 者	（瀬戸市史編さん委員） 川本雅之委員長、青山一郎委員、加藤正彦委員、佐藤一信委員、長井千春委員、 丹羽蒼委員、山川一年委員 （事務局） 地域振興部長 中島、瀬戸市文化課 服部、井上、山内

開 会

- ・委嘱状交付
- ・川本委員長あいさつ
- ・委員紹介、事務局挨拶
- ・現在までの瀬戸市史編さん状況について
事務局より、資料に基づき説明

協 議

- (1) 瀬戸市史編さんに係る基本方針（案）について

事務局より、別添資料2に基づき説明

（質疑）

- ・八巻について、明治以降と説明があったがどこまでを筆録予定か。（佐藤委員）
→昭和時代までを予定している。（事務局）
→明治時代から昭和までを八巻の一冊にまとめるのは難しいのではないか。近代の瀬戸は国内外から見ても当時のやきものについて知れる重要な位置づけであり、ボリュームがあわないのでは。八巻は明治時代を書くだけで手いっぱいではないか。瀬戸の正史として抜け落ちる箇所がないような編さんを目指してほしい（佐藤委員）
→瀬戸が明治時代以降グローバルにかかわりがあり、瀬戸だけではなく多分野的視点で見る必要がある。（長井委員）

- ・委員の提案によって基本方針の内容は変わるのか（青山委員）
→委員会の審議により基本方針は決定されるので、変更が必要という意見があれば変更は可能（事務局）
- ・県内産業で何度も一番になったのはやきものであり、その中で瀬戸は重要な立ち位置である。特に近代以降は外すことができないため、網羅できるとよい。（佐藤委員）
→佐藤委員に同意である。瀬戸の歴史文化の根幹を成すのが市史であり、しっかりしたものを作ることが大事。時間をかけてでもきっちり作っていく必要がある。今までの研究成果を網羅するには八巻一冊では難しいと考える。また、明治～昭和のことであれば記憶に残っているものがあるうちに資料を集めて残していく必要がある。（青山委員）
- ・瀬戸市史編さん委員会専門部会の推薦者について、意見があればいただきたい。（事務局）
→意見があれば事務局までお知らせいただくよう依頼。

⇒協議事項(1)について、八巻の内容については次回に事務局案を提出することとし承認

(2) その他

(質疑)

- ・市史編さん体制、特に事務局は人員が必要になるかと思うがそれについてはどう考えているか。（青山委員）
→文化課内に事務局を置いているが、兼務ばかりでは厳しいものがあるため人事課と調整中である。（事務局）
- ・近代以降の発展について、美術史的・考古学的観点が中心となっている。しかし昭和 30 年代以降の産業史的な観点につなげていく必要がある。オールドセラミックに関わらない方も編さんに携わった方がよい。瀬戸の企業で陶磁器産業が元となった企業もあり、そういったところと協力できるとよいのではないかと。未来に向けての産業としての視点も必要だと思う。（長井委員）

(閉会)